

# 2024年度実績

## ジョブ型研究インターンシップ



会員企業 66社

※ 令和7年3月末時点

- ◆ 提示・募集 **21** 社
- ◆ JD数 **109** 件 (募集人員166名)

**JD**

(ジョブディスクリプション)



募集

**109**件



会員大学 108大学

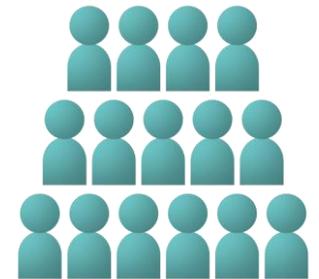
※ 令和7年3月末時点

- ◆ 学生情報登録人数 **8327** 名
- ◆ 応募人数 **91** 名

**博士学生**

応募

**91**名



ジョブ  
マッチングサイト



マッチング成立数

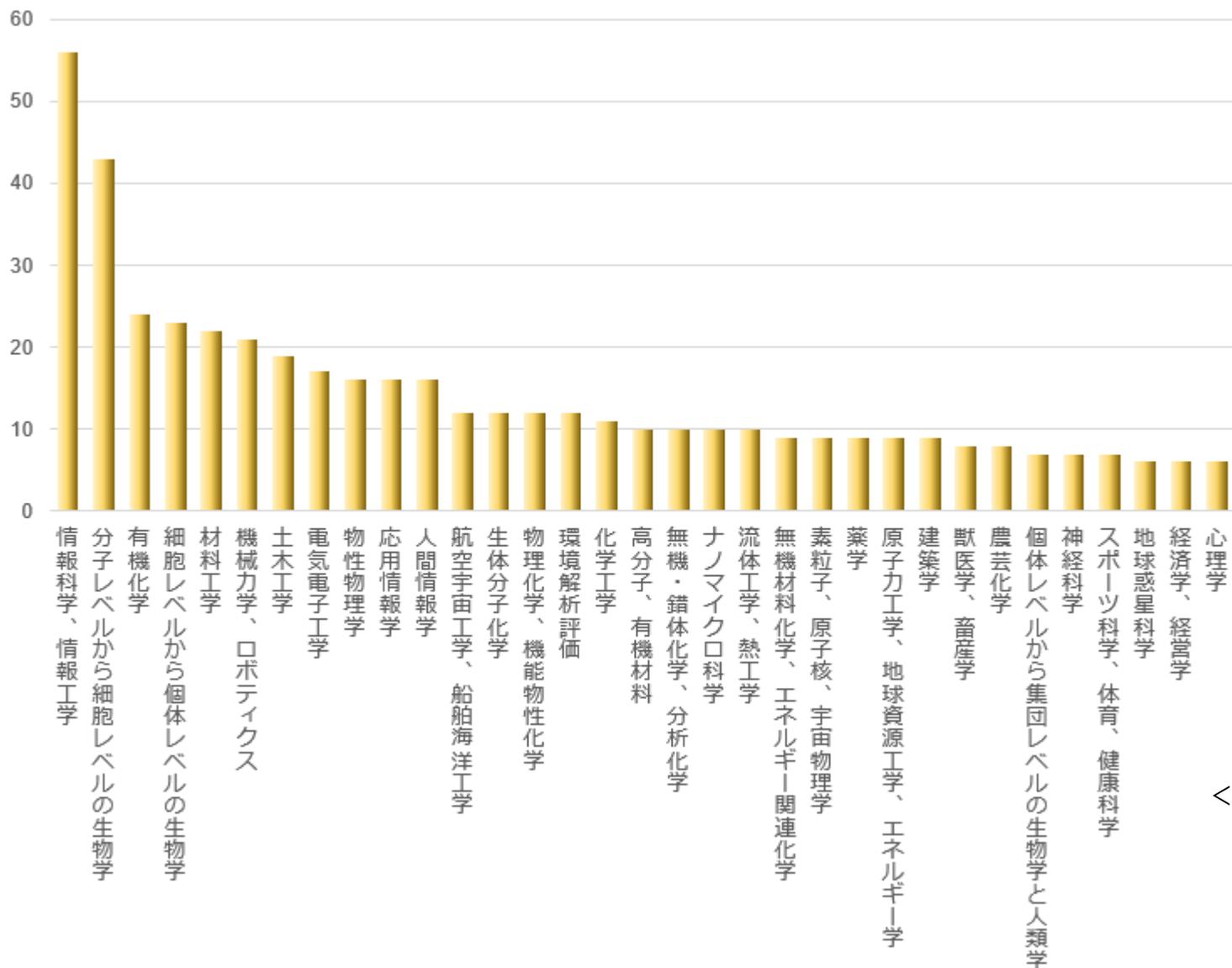
**24**件

1年 11件

2年 12件

3年 1件

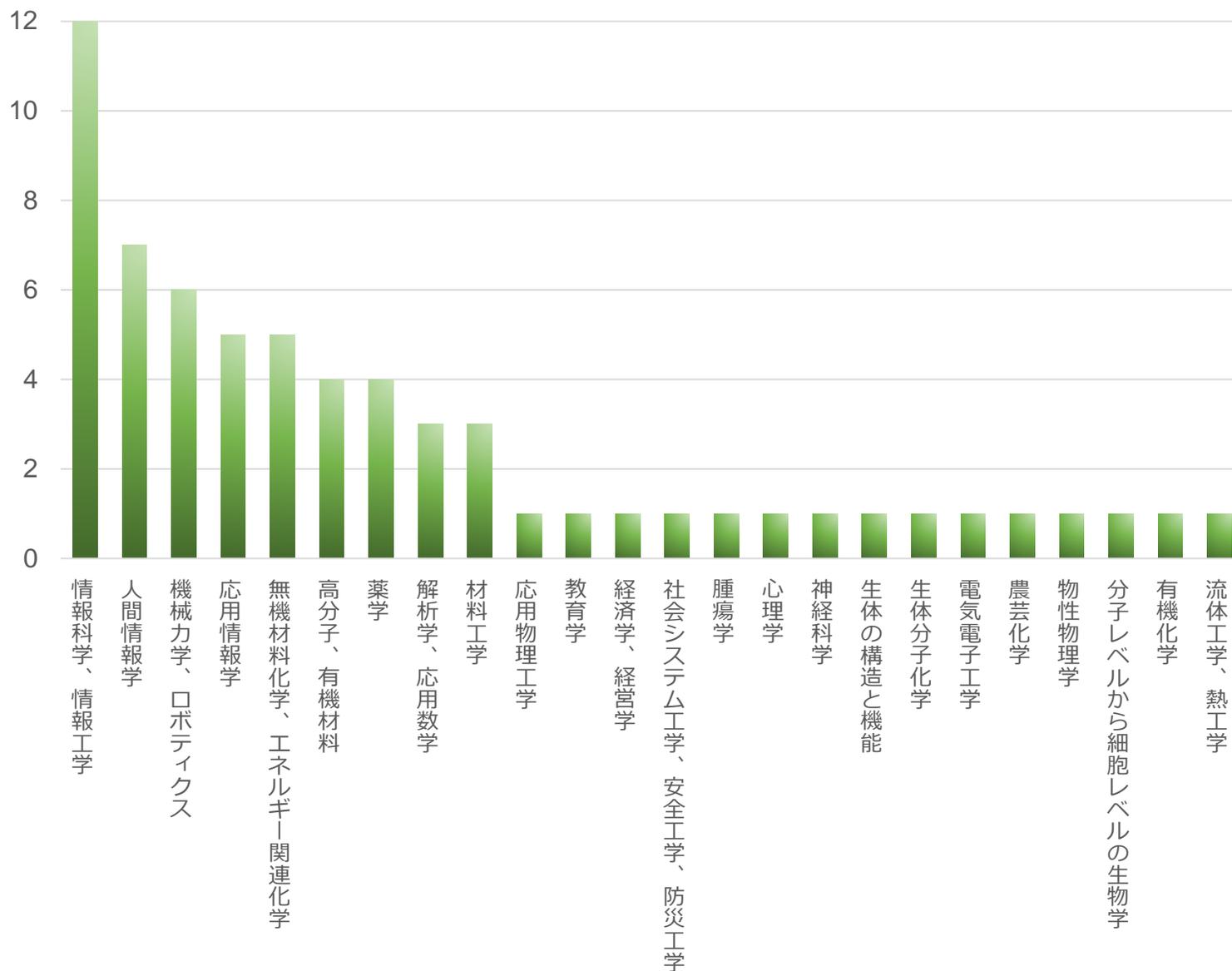
# 2022年度における登録学生の研究分野



＜本集計にかかる留意点＞  
 研究分野は、科学研究費助成事業（日本学術振興会）の審査区分表\*における64つの「中区分」の中から、3つまでの選択制となっております。（したがって、左表は登録学生の実人数とは一致しません。）

\*科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会, 2022, 科学研究費助成事業 審査区分表, 日本学術振興会ウェブサイト, (2023年2月1日取得, [https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02\\_koubo/shinsakubun.html](https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02_koubo/shinsakubun.html))

# 2022年度におけるJDの研究分野（事務局推定）



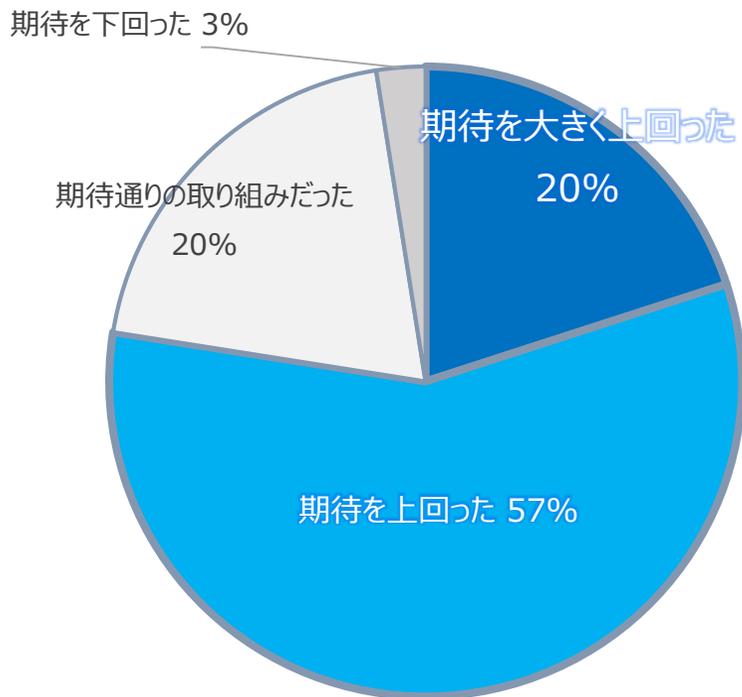
# 当インターンシップを実施した企業の反応

～実施企業へのアンケート結果より  
(2021～2024年度の累積)

## 質問Ⅰ

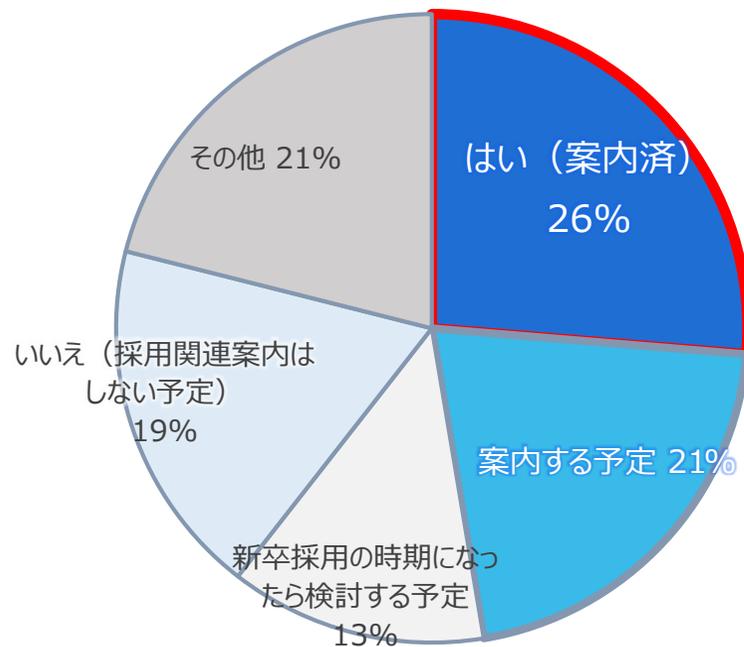
受入学生のインターンシップでの活躍の印象について教えてください。

(n=39)



## 質問Ⅱ

インターンシップ終了後、参加学生に採用に関する案内を行いましたか。(n=39)



「期待を(大きく)上回った」  
との回答の主な理由  
(選択式・複数回答可)

- 自発的に任せた仕事を進めてくれた。
- 任せた業務で十分/十二分な成果を上げた。
- チームメンバーへの確認・相談が適切であった。
- 社員とのコミュニケーションがスムーズだった。
- 他

上記設問にて「はい(案内済み)」と回答したケースにおける  
学生の選考状況としては…

「内定(入社意思確認済み)」と「学生からの応募待ち」で  
9割弱を占めている。

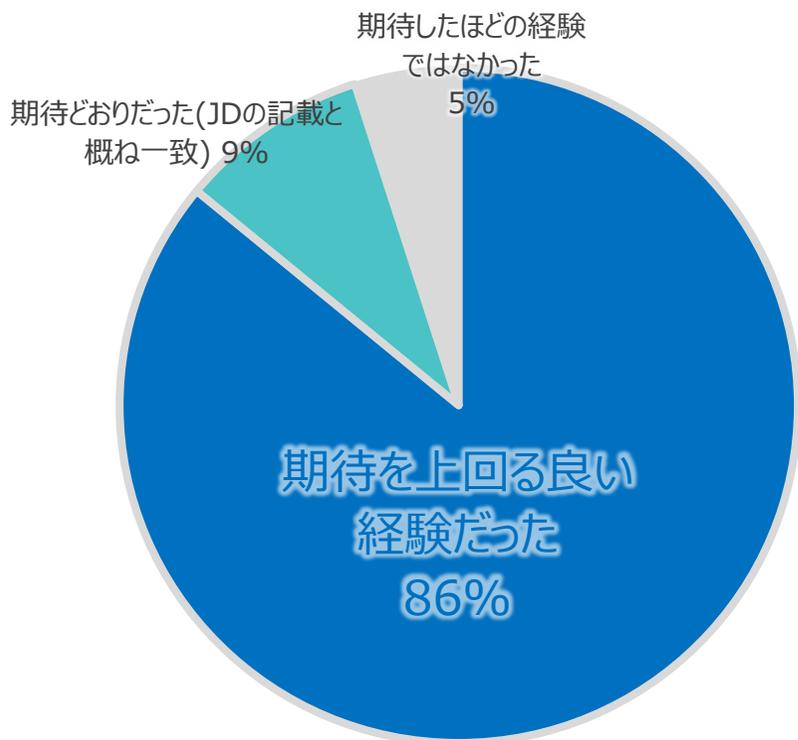
# 当インターンシップへ参加した学生の感想

～参加した学生へのアンケート結果より  
(2021～2024年度の累積)

## 質問Ⅲ

受入先でのインターンシップ全体の感想  
について教えてください。(n=52)

回答の理由より抜粋(自由記述)



● 博士卒の人材が企業で働く際にはどういったことが求められるのかを知ることができた。(分野:化学系、受入先:食品メーカー)

● 博士課程で培ったトランスファラブルなスキルを実際の職場でどのように活かされるのかを知ることができたとても良い機会だった。(分野:応用物理工学系、受入先:官公庁)

● 想定以上に裁量を持って働くことができ、チームの一員として迎え入れて頂いたためです。(分野:人間情報学、受入先:総合電機メーカー)

● 企業で実際に研究を行うことで、企業とアカデミアの違いを知りいい経験になりました。また、企業での業務についても知ることができました。さらには、実験の手技についても教えていただくことができ、研究者としてのスキルアップにもなりました。(分野:電気電子系、受入先:製薬企業)

etc...

# 当インターンシップへ参加した学生の感想

～参加した学生へのアンケート結果より  
(2021～2024年度の累積)

## 質問IV

インターンを通して得られた学び・気づきを教えてください。(自由記述) (n=52)

- 専門が異なる人々との協働を通じて、視野を広く持つことの重要性を学んだ。(分野:数学系、受入先:素材メーカー)
- アカデミアでの研究と産業界での研究の違いを知ることができた。(分野:応用情報、受入先:総合電機メーカー)
- 放射性医薬品についての知識や経験、手技は想像以上に会社でも求められていることを知りました。この分野を専門としている大学や研究室が国内にもかなり少ないので、力をもっとつけるとともに広い有機合成についても修めることで将来必ずどこかで役に立てると強く確信できた。(分野:薬学系、受入先:製薬企業)
- 企業の研究開発では、時間の制約がある中でいかに価値を見出すかが非常に重要であることを身をもって学んだ。(分野:化学系、受入先:食品メーカー)
- 現場で研究をする実感、会社のカルチャー、雰囲気。企業研究の考え方、速さ。安全性への高い意識。(分野:化学系、受入先:総合化学メーカー)
- 博士課程在学中に養成される能力は、博士課程中の研究に留まらず、むしろ卒業後のキャリアにおいて重要な意味を持つこと。(分野:応用物理工学、受入先:官公庁)
- 同じ部署の方々と交流する中で、自分の趣向や大学院で培ってきたスキルについて客観的に知ることができた。(分野:物理系、受入先:輸送機器メーカー)
- 自分の長所と短所を外部から評価してもらえて自信が持てるようになった。また、研究に必要な技術や知識、考え方は、自分の専門分野以外にも繋がっていることがわかった。(分野:電気電子、受入先:製薬メーカー)

etc...